

## 萩焼とは

「萩焼」は、後に茶碗戦争といわれた文禄慶長の役(1592~98)の豊臣秀吉による朝鮮出兵の際に、朝鮮より連れて来られた陶工を、毛利氏が萩藩の御用窯として庇護して始まったことを起源としています。

萩焼の魅力は高温の炎が生み出す「窯変」(ようへん)にあります。やわらかで素朴な風合いと手取りの良さを特徴とする萩焼は、その風格とともに、茶人の珍重する「萩の七化け」という言葉が示すとおり、使い込むほどにその表情を変え、得も言われぬ風情を醸し出すことでも知られています。

以来400年の間、江戸時代は萩藩の御用窯として、明治以降は職人から作家へとその主導は移り変わり、そして現在も萩の陶芸家たちは、伝統を守りつつ大きな変革を見せています。

伝統の茶陶はもちろんのこと、普段使いの器や花器、オブジェなど、多種多様に拡がりを見せており、萩陶芸家協会会員は「萩焼」の栄えある伝統を受け継ぎながら、新たな世界に挑戦すべく日々研鑽し努力を続けています。



新庄貞嗣 萩 筆洗茶碗 H9.2×W13.6×D12.1cm



三輪和彦 「淵淵」茶碗 H10.7×W14.3×D14.3cm



兼田昌尚 陶 '15-[碩]  
H42.0×W102.8×D29.0cm



金子信彦 無限 H14.0×W98.0cm

## 萩焼の技法

萩焼の原料となる土は、大道土、見島土、金峯土です。この3種を混ぜ合わせた土は、ざんぐりとした土味が器に温かみや萩焼特有の趣を醸し出してくれます。

萩焼は、ろくろ成形を基本として、たたらくりぬきなどの技法もおりませ、釉薬には、長石に雑木の灰を混ぜたものや藁灰を使います。

今でも登り窯などの薪窯で焼成する窯元も多く残っています。

## 萩焼の制作工程



左から見島土、金峯土、大道土

1. 原土
2. 土漉し (水篩)
3. 乾燥・土踏み



4. 土揉み (菊練り)

ろくろ 轆轤に載る分量だけ卓上に置いて練り上げる



5. 成形 (水挽き)

水挽き成形に使う轆轤は、足で蹴って右回転(時計回り)させる

6. 乾燥

7. 仕上げ

8. 加飾 (化粧掛け)

9. 乾燥

10. 素焼き

約800℃の温度で16~18時間かけて焼成



14. 窯出し

3~7日徐冷。窯の中が冷めた段階で窯出し



13. 焼成 (窯焚き)

約1250℃の高温で約30時間の焼成(焼成室が3つの窯の場合)。燃料はアカマツの薪



12. 窯積み

テンビン積み(写真)、棚積み、匣鉢積みで窯詰め



11. 施釉 (釉掛け)

調合した釉薬を施す。土灰釉と藁灰釉が主流



十二代 三輪休雪 夏子(1977) H26.5×W40.6×D19.5cm



岡田 裕 黒雲水指 H21.5×W20.7×D18.5cm



波多野善蔵 萩茶盃 H9.0×D14.7cm



坂倉新兵衛 灰被花器 菖蒲 H31.3×W26.3×D19.5



大和保男 炎彩掛分陶箱 H15.0×W36.0×D36.5cm



野坂康起 萩伊羅保軸茶碗 H8.0×W15.4

## 萩陶芸家協会

- ◆会長 十二代 三輪休雪
- ◆設立 平成5年(1993)11月25日
- ◆会の目的  
会員相互の親睦及び陶芸の活性化、後継者の育成、地域文化の向上に寄与すること
- ◆萩焼の伝産法指定  
平成14年(2002)1月、伝統的工芸品産業の振興に関する法律(伝産法)に基づき、萩焼が国の伝統的工芸品に指定され、萩焼振興を担う中心的団体と位置づけられる
- ◆作家会員102人、賛助会員165人  
(陶芸愛好家の皆様のご入会をお待ちしています)



萩陶芸家協会

検索

## 萩陶芸家協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向510  
萩市商工振興課内  
Tel 0838-25-3638 Fax 0838-26-0716  
Email:hagi.tougei@gmail.com

2016年1月



萩反射炉



萩城下町



恵美須ヶ鼻造船所跡



松下村塾



大板山たたら製鉄遺跡

# 萩焼

— 伝統と革新の志



萩陶芸家協会